

## ちいさな証

## クリスチャンが一つになるとき、

本園万子 (かずこ)

スイス日本語福音キリスト教会会員



1月にスイスJEGが支援する神学生、仙台の菊地君を訪ねました。スイスJEGや友人から預かった義捐金を菊地君が所属する仙台・利府教会内に設立された被災地支援団体のオアシスライフ・ケアに届けるためでした。

実は、私は心身ともにバランスを崩して、1年もJEGに足を運んでいませんでした。その

間、子供たちが通う現地教会へは通っていたものの、信仰からは何歩も後退していました。そんな危険な状態の時、アフリカにいた福島出身の青年とFacebookで出会いました。彼は牧師の3男で、数年前に知り合った頃は、少し生意気そうでした。

数回メッセージのやり取りをした後、彼は、「クリスチャンじゃないけど、僕なりに祈りしてます。」と私の椎間板移植手術のことを気遣ってくれました。東日本大震災の後のことでした。それから、音沙汰無いこと5ヶ月、いきなり、我が家に滞在していいかと打診してきました。以前、「日本に帰る前にスイスに立ち寄りなさい」と書いたからですが、そのメールにはおまけがありました。「洗礼を受けてから、スイスに向かいます。」ということでした。

彼が我が家に来た翌日、JEGに連れて行こうかとも考えましたが、私たちはあまり乗り気がしなくて、山に登って神様を賛美することにしました。信仰に関しては

かなりシビアでとっつきにくい気がして、何気ない2週間を共に過ごしました。私は仕事をしていたので、その間彼はスイス中を旅していました。それにしても、何にでも感動し、素直でよく感謝する青年だと関心したものでした。

そして、今回の里帰りでは、残念ながら、彼と再会することはできませんでしたが、彼のお母様が私に会いに来てくださいました。私は今回の被災地訪問で、三人の青年の成長を目の当たりにしました。三人とも、神様一筋、神様大好き青年に成長していました。神のなさる業のすばらしさに、私もパワーをもらいました。素直に神様を信じ、褒め称え、聖書の言葉を栄養とする彼ら。



仙台行きの寸前にJEGの兄弟姉妹が示してくれた被災地への愛も心に染みしました。1年間のブランクも感じさせない愛。私は、再び、心からの賛美ができそうな気がします。大切にすべきは、主との密接なつながり、ということを利用府教会で説教されたクリスチャン新聞編集長の根田氏から学びました。様々な思いを抱きつつも、クリスチャンが一つとなる時がきていると感じました。根田氏から被災者支援のために立ち上げられたDRCnetの存在を聞きました。今、私たちにできる小さなことが見つかるかもしれません。

I love Jesusと高らかに声を上げ、ハレルヤコールを続けよう。神のなさることは時に適って美しい。神は万事を益としてくださる唯一の存在。溢れる喜びの中で。

I love Jesusと高らかに声を上げ、ハレルヤコールを続けよう。神のなさることは時に適って美しい。神は万事を益としてくださる唯一の存在。溢れる喜びの中で。

Hope For Living.net

My Hope Story

Hope for the Future

Tree of Hope

Words of Hope

Prayers of Hope



神戸大震災で弟さんを亡くされた森祐理さんほか、最愛の肉親を失った人々が証をしています。 <http://hopeforliving.jesus.net/>

## 「原発に一番近い教会」

大分朝日放送で流浪の教会、福島第一聖書バプテスト教会のドキュメンタリーフィルムの放映がありました（16分間）これは昨年12月に会津から米沢へも取材に来た番組です。

[http://.be/juW\\_naUZu7Iyoutu](http://.be/juW_naUZu7Iyoutu)